日本人間関係学会ニュース 第 88 号　発行日:2016.10.14

News No.88 Japan Association of Human Relations October 14, 2016

発　行：日本人間関係学会　広報委員会　E-mail: nagano@klc.ac.jp 永野典詞研究室

事務局：〒278-8510　千葉県野田市山崎 2641 東京理科大学理工学部教養科川村(幸)研究室

FAX:04-7122-1560　E-mail:jahrjimukyoku@gmail.com

［内容］理事長挨拶　☆人間関係学探訪　☆関西地区会（50 回記念）　☆南三陸支援活動報告　☆東北地区会　☆事務局便り

《理事長挨拶》

人間関係力の実践技法の確立を

―人間関係力をいまこそ発信しよう―

日本人間関係学会理事長　小 山　望

（埼玉学園大学大学院教授）

来月に第 24 回全国大会が関西福祉大学で谷川和昭先生を大会委員長として開かれます。今回の大会のユニークな企画として人間関係力の技法を会員が体験する形のワークショップが行われることです。理論も大事であるけど実践がもっと大事と常々感じている小生には全国大会で講演やシンポジウムもいいけど、実際に人間関係の技法に触れ体験すること機会がないのが、不思議でした。学会なのだから、理論の発表だけでなく、実践技法の発表や研鑽できる場がないと、学会がサロン化して実践力が衰えることが懸念されます。

現代社会は都会でも地方でも人間関係が希薄になり、人と人が交流する機会が減っています。仕事優先で家族同士の近所付き合いが減り、子どもが育つ地域社会が狭まっています。そのためか、家庭や職場や地域で人間関係をめぐってトラブルが増えています。その意味で人間関係の支援が求められている時代ではないでしょうか。まさに学会の出番です。被災地での本学会での支援活動は、南三陸町地域での住民同士のコミュニケーションづくりや仮設住宅の住民同士のコミュニケーションづくり、具体的には子どもたちと遊んだり、お茶っこ飲み会、盆踊り、バーベキュー会、わかめの収穫作業のお手伝いという形で、人間関係づくりをずっと 5 年間行ってきました。カウンセリング団体や福祉団体でもない本学独自の支援活動と言えるしょう。

人間関係づくりには、人々の日常生活のなかで、「おはよう」「こんにちは」の挨拶に始まり、天気の話、健康の話、最近のネタ話などいわゆる雑談が欠かせません。中身がない話こそ大事なのです。相手との感情交流で互いに話して気持ちよさが残るならいい会話です。話が苦手なら聴き上手になりましょう。こうした雑談を通じたつながりから人間関係ができていくと思います。我々はいろいろな場面や場所で人間関係の支援を積み重ねてきました。こうした実践や経験の知を「人間関係士」という資格制度の普及という形で社会に広めていこうと考えています。「人間関係士」を一般市民向けの講座や大学での一定の講義（たとえば、人間関係論、カウンセリング概論など）を受講する形で資格をとれるような制度に弾力的にしていこうと考えております。資格取得を広める形で本学会の社会への発信力を高めていくのも狙いです。そのためにも人間関係力の実践技法の向上と確立が問われています。会員の皆様、人間関係力、実践技術を互いに高め合おうではありませんか。

人間関係学探訪シリーズ④

日本人間関係学会は教育・医療・心理・福祉など研究者だけでの集まりでなく、人間関係に関心のある企業人、学生、市民など多種多様な会員が集まっています。そうした会員のお一人おひとりにスポットを当てて、Q&A 形式で、その実践やお人柄、人間関係への想いを語っていただき、人間関係学の探究に何らかの示唆を得ることが本シリーズの意図・ねらいです。シリーズの第４回では、初の女性登場、栃木県は佐野短期大学の森千佐子先生に語っていただきました。

森 千佐子 氏

佐野短期大学教授。博士(社会福祉学)、看護師、介護支援専門員、レクリエーション・インストラクター、福祉レクリエーションワーカー、アロマテラピーインストラクター、人間関係士。主な研究領域は「介護者支援について」「介護福祉教育について」「高齢者支援について」など。

アロマラにピーサークル「チーム・メリッサ」の学生たちと一緒

高齢者のデイサービスでのアロマボランティア活動風景

永野（広報委員会）：こんにちは。森千佐子先生。お目にかかるのは昨年 11 月の全国大会以来となります。大会ではお世話になりました。おかげで良い大会とさせていただきました。

森：熊本大会では大変お世話になりました。大会実行委員長を務められた先生のご苦労・ご負担は、とても大きかったと思います。先生方や学生さんたちのおかげで、温かさを感じる、素敵な大会になったと思います。情報交換会では、多くの参加者の方々との交流もできました。本当にありがとうございました。

４月 14 日の地震には大変驚きました。被害の状況をニュースで見聞きし、心配することしかできないことをもどかしく思っていました。一日も早い復興を願っていますが、その後も多くの地震が起きていますし、未だに以前の生活に戻ることができていない方々もいらっしゃるそうですね。

永野：ありがとうございます。熊本は日一日と普段の生活を取り戻しています。ただし、益城町や南阿蘇などまだ避難者も多く、復興までには時間がかかるようです。さて、森先生のご経歴を教えて下さい。

森：現在は介護福祉士養成課程の教員をしていますが、元々は看護師として病院で働いていました。３交替や２交替勤務もしていました。その後、看護学校の教員をしていた時に、社会福祉士と介護福祉士の課程を始めるので教員を探しているという話がありました。看護師の私に介護福祉教育ができるのだろうか？と正直思いましたが、それまでの知識や経験が活かせればと思い赴任しました。それから、早いもので十数年が経ちました。

永野：やはり、現場経験は強いですね。生の経験を伝えることも重要だと思います。では、次に先生のご趣味は何ですか。

森：スポーツ観戦と温泉です。体を動かすのが好きで、学生時代は運動部に所属していましたが、今はもっぱら観戦です。野球、バレーボール、サッカー、ラグビー、ハンドボール…と、いろいろ。結構、エキサイトして応援しています。今夏はリオでのオリンピック・パラリンピ

ックがありましたので、翌日のことを気にしながらも、長時間テレビの前に座っていました。目覚ましをセットして、早朝からテレビを観たり…。オリンピックに比べて、パラリンピックの放映が少ないのは、とても残念でした。スポーツで体を動かすことが少なくなったので、できるだけ歩くことを心がけています。休みの日には山歩きをし、そのあとに入る温泉は最高です。

あとは、数年前からですが、職場の先輩に誘われたことをきっかけに、アロマテラピーに関心を持ち資格を取得しました。久々に単語カードなどを作って試験勉強しましたが、記憶力の低下を思い知らされました。アロマを生活に取り入れたり、自分自身の生活に役立てたり、高齢者施設でアロマボランティアをさせていただいたりしています。

永野：そうなんですね。運動がご趣味とははじめて知りました。また、山歩きはいいですね。気分転換に持ってこいで、運動不足の解消にもなりますよね。では、学会に入会してどのくらいになりますか。

森：入会は 2008 年です。京都での第 16 回大会に初めて参加しました。ですので、今年で 9 年目になります。

永野：私と同時期に入会されましたよね。では、学会に入られたきっかけは。

森：本学会の常任理事でいらっしゃいます三好先生からお話を伺いました。様々な専門分野の方が入会されていて、会員は研究者だけではないということが、他の学会にはない魅力だと思い入会しました。入会後、多くの方々との出会いがあり、私の人生を豊かにしてもらえたと思っています。（オーバーでしょうか･･･笑）

永野：いや、私も本学会に入会したことで人生が豊かになりました。すごいことですよね。では、先生が主宰あるいは積極的に活動されていることがあれば教えて下さい。または、何かライフワークについてでも結構です。

森：介護者に対する支援を研究テーマの一つとしていることもあり、介護している方々の家族会で、お話し会や研修会などのお手伝いをしています。いろいろなお話しを伺うことでとても勉強になり、授業内容の参考にもさせていただいています。今後も、何らかの形でかかわっていきたいと思っています。

また、先ほどもお話ししましたが、高齢者施設やデイサービスで、アロマボランティアをさせていただいています。今年度はアロマサークルを作り、アロマを勧めてくださった先生、学生と一緒に活動しています。これからも続けたいと思っていますし、利用者の方だけでなく職員の方々にも体験していただけたらと思います。学会の被災地支援には、今のところ残念ながら参加できていないのですが、そこでもアロマを役立てる機会があればと考えています。

永野：アロマサークルに興味を持ちました。熊本もまだ復興途上にあります。ぜひ、何らかの形でご支援をいただけると幸いです。ところで、本学会には人間関係士という資格があり、７つの人間関係力を打ち出しています。この７つを大事になさっている順番に並べ替えるとどうなりますか。

森：７つの力、どれも重要で大切にしたいと思っていますが…。①他者受容・共感力、②自己受容力、③回復・調整・再生力、④連携・協働力、⑤媒介力、⑥全体認識・洞察力、⑦創造・発展力でしょうか。

永野：並び替えてみてのご感想をお願いします。

森：そうですね。やはり順位をつけることは難しいです。①の他者受容と共感は、介護福祉の授業でも、大切であるとよく話しています。また、自分自身を受け入れられないと、人間関係において前向きになれないのではと思い上位に置きました。役割や立場によって、順位の考え方は変わるかもしれませんね。

永野：では、最後にもう 1 つだけ。人間関係、こうすれば良くなりますよという何か提言なり提案はございませんか。

森：教員としては、相手の立場で考えることの大切さを学生に伝えています。実際には、簡単なことではありませんが…。人と人には、どうしても合う・合わないがあります。そのことを認めて、相手を受け入れつつ、適度な距離感を保つことだと思います。そして、相手と自分との共通点や相手の良いところを、ひとつでも見つけること。それまでに持っていたイメージとは違う面が発見できるかもしれません。さまざまな人がいるからおもしろい、そう思っています。

永野：先生の人間味あふれるお話に引き込まれてしましました。今日は貴重なお話をどうもありがとうございました。

（インタビュー：2016 年 9 月 20 日）

☆ ☆ ☆ ☆ 第 50 回記念関西地区会研究会報告 ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

共　催：研修委員会・エイジング部会
〃　：特定医療法人北勢会 そういん
関西地区会会長　早坂　三郎

日時：平成 28 年 6 月 4 日（土）午後 0 時 00 分米原駅集合
～6 月 5 日午後 3 時 30 分米原駅解散
見学施設：特定医療法人北勢会 北勢病院
記念講演会場：六石高原ホテル カリスタ（4F）
記念研究会場：特定医療法人北勢会 デイサービスセンターなでしこ

今回は、関西地区会研究会の 50 回記念大会並びに共催で開催会場の提供を頂きました特定医療法人北勢会・障がい者総合相談支援センター「そういん」創立 10 周年記念と併せての記念すべき開催となりました。

さて関西地区会は、2003（平成 15）年 10 月に発足致しました。設立の研究会では、奇しくも今回の記念大会の開催会場をご提供頂いた佐藤貴志会員による当時全国的に関心が寄せられていた「ベテルの家」についての研究発表でした。爾来、多くの会員の発表やご参加によって、回を重ねることが出来ましたことに感謝致しております。

関西地区会第1回研究会　＜平成15(2003)年10月＞

つきましては、第 50 回記念関西地区会での講演会及び研究会の概要を中心にご報告します。

記念講演会は、関西地区会の 50 回記念と「そういん」創立 10 周年記念とのダブル記念でしたので、三重県及びいなべ市の関係者の皆様と北勢病院関係者の皆さんのご参加を得て、熱気溢れる会となりました。

記念講演会 1

「障害者差別解消法について」
山本克司（聖カタリナ大学）

障害者差別解消法の概要をこの法律の依拠する基本的人権について、特に、個人の尊厳を中核とする人権体系、生存権、法の下の平等、表現の自由などの理論的解説と障がい者に対する「合理的配慮」について解説されました。

記念講演会 2

「インクルーシブ教育について」
永野典詞（九州ルーテル学院大学）

幼児教育と大学教育におけるインクルーシブ教育の現状とそれに伴う合理的配慮のあり方について、特にインクルーシブ教育の理解

記念講演会

と合理的配慮に対する考え方について、またインクルーシブ教育を適切に行うに当たりその支援・指導に当たる保育者や教育者のケアと人間関係のあり方について、さらに震災とインクルーシブでは熊本地震から見えてきた共生社会の難しさ等についての状況が報告されました。

記念研究会

①発表者：三好明夫（京都ノートルダム女子大学）
テーマ：「認知症高齢者のレクリエーション場面でのアクアセラピーの効果について」
国立大学法人岐阜大学とジェックス株式会社を中心とする研究チームの実験による、多くの施設に設置され出しているアクアリウム飼育の観賞魚が、人の心を癒し和ませている効果と感情の移入傾向、脳の活性化、ストレス緩和とリラックス効果についての報告でした。

②発表者：松葉知佳（特定医療法人北勢会 なでしこ）
テーマ：「精神科病院保護室からグループホームへ」－スタッフの働きかけで改善が見られた一症例－
スタッフの関わりと働きかけにより語彙が増えるなどの改善、そして元来の穏やかな性格面が現れてきた、との３障害(知的・精神的・身体的)を入居の対象とする特定医療法人北勢会 GH なでしこ事業所でのケース・スタディでした。対話により信頼関係が築かれたが、そこには記憶力・理解力・コミュニケーション力の改善があったと考えられた。

記念研究会

③発表者：冨田千晶（鈴鹿医療科学大学）
テーマ：「イタリアの精神医療改革からの学び」
1960 年代から活躍した精神科医フランコ・バザーリアが掲げた「自由こそ治療だ」との理念と「バザーリア法」のもと進められたイタリアの精神医療改革の解説のもと、日本では精神疾患は５大疾病で 320 万人と言われているが、制度改革により在院日数も平成５年に比べ半減している精神保健福祉現場の事例紹介により、イタリアでの改革の日本の精神保健福祉への応用を検討された。

以上の内容について熱心な質疑応答が繰り広げられ予定を大幅に過ぎましたが、続いての地区会打ち合わせでは学会の活動報告と地区会運営についての審議が行われました。
また、１泊２日の記念研究会でしたので懇親会も企画し、天下の奇祭で勇壮な「上げ馬神事」で有名な多度神社直ぐにある江戸時代創業の鯉料理「大黒屋」さんで舌鼓を打ち、さらにホテルでの車座宴会は深更に及びました。翌日の最後に揃っての昼食の後、奥村　務会員の運転と北勢病院のバスにて米原駅まで送って頂き、笑顔で成功裡に解散した次第です。

「大黒屋さん」での懇親会

なお、参加者は、地区会会員が 23 名で、一般（県・市関係）は約 15 名、そして北勢病院関係者を合せると、2 日間ののべ参加者数は 90 名に及ぶところとなりました。

南三陸支援活動報告

佐々木美恵（埼玉学園大学人間学部）

平成28年8月28日（日），29日（月）の日程で，南三陸町を訪問した。活動メンバーは，小山望理事長の他，学会員3名，埼玉学園大学大学院生1名，東京理科大学学部生2名の計7名である。1日目には体育館で子どもたちと思いきり遊び，夜には交流会，2日目は総合ケアセンター南三陸を訪問した。約1年ぶりであったが，前回から比べて大きな変化を迎えていることを感じる訪問となった。

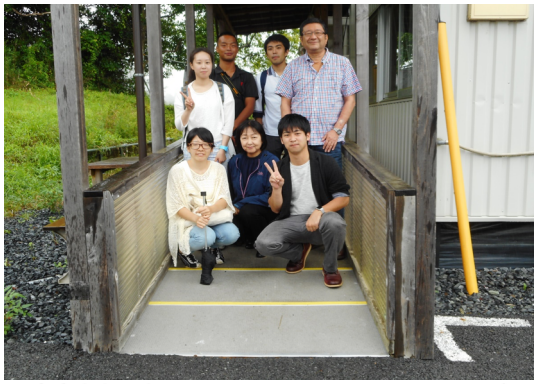
大きな変化とは，仮設住宅住民の高台移転の進展である。私たちの活動で訪問させていただいていた細浦地区の仮設住宅の皆さんは，全員がすでに仮設住宅から新しい住居へと移っていた。移転先となった高台の住宅地には新しく大きな家が立ち並び，新たな生活をスタートさせていた。それ自体は非常に喜ばしいことである。確実に時が流れていることを感じるものであった。誰も住む者のいなくなった仮設住宅を訪問した際には，子どもたちと野球や缶けりなどをして，まさに所狭しと駆け回ったことを想起し，少しばかりの感傷に浸ったものである。しかしそれはおそらく，当事者ではない者の感傷であろう，と思う。

28日の夜には，高台の集会所で細浦地区の皆さんとの交流会が催された。参加者持ち寄りの宴とはいえ，そこには南三陸の海の幸が並び，私たちを迎えてくれる心づくしの思いがひしひしと伝わってくるものであった。このような機会があって初めて使用するというその集会所で，おろしたての包丁や鍋を使って準備された宴であった。地区の皆さんからすると，これが最後の交流会だから，という思いもあったようである。「最後なの？」と名残惜しそうに尋ねられ，「また来ます！」と自然と再会の思いを口にしていた。

確かに，仮設住宅から移転したことは確実に災害後復旧のステップアップであり，住民の皆さんからすれば，いわゆる支援活動の終焉を意味するものかもしれない。しかしそれと同時に，私たちの訪問もまさに交流といった方が適切なものへと形を変えてきている。子どもたちの成長と，住民の皆さんの復旧，復興，そしてそこに横たわるそれぞれの思いを，僭越ながら見守らせていただく（言い換えれば，そのようなことしかできない）「交流」として，私たちの活動はもうしばらく続いていくのではないかと思う。

南三陸では，被災から復旧，復興をめぐる様々な思いがコミュニティに沈殿している。おそらくそれは災害被災地では多少とも共通して生じることであろう。2日目に訪問して情報交換をさせていただいた総合ケアセンター南三陸の地域包括支援センター，工藤初恵所長，保健福祉課健康増進係，佐藤奈央子係長の話からもそれは感じることができた。被災状況からの復旧，復興には格差が伴うものである。各世帯の構成員の違い，経済力，生活力の違いが浮き彫りになる。そして地域の高齢化の問題も大きい。支援する側のマンパワーの不足もある。復旧，復興のステージは移行していくが，中心にいて人々の暮らしを考え，動いている者の心身の負担も考慮されていく必要がある。

私たちができることは決して多くはない。そして，支援されることをいつまでも（おそらく厳密には初期から）地域は望んでいない。復旧，復興のステージに沿って，私たちができることを柔軟に変化させながら，邪魔せずに寄り添っていきたいものである。



空き家となった仮設住宅での活動メンバー記念写真

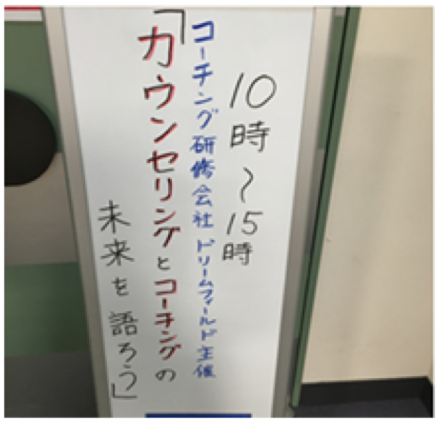
東北地区会活動報告

「カウンセリングとコーチングの未来を語ろう」

日時　平成28年7月24日（日）　10時～15時
場所　エル・パーク仙台5Ｆ　セミナーホール２
主催　阿部暢夫さん（会員）
日本人間関係学会東北地区会
コーチング研修会社ドリームフィールド共同開催
参加者　35名

7月24日（日）エル・パーク仙台（仙台市青葉区）にて「カウンセリングとコーチングの未来を語ろう」と題して、日本人間関係学会東北地区会とコーチング研修会社ドリームフィールドの共同開催で、コミュニケーション講演会とパネルディスカッションを開催しました。

午前中は東北医科薬科大学杉山雅宏先生が「カウンセリングとコーチングの類似点」について講演、午後はコーチング研修会社ドリームフィールド鈴木満先生の演習とプロフェッショナルコーチ阿部侑生先生を交え、カウンセリングとコーチングの未来について、3人の対談がありました。



書籍紹介

「自分心読本」

東北医科薬科大学　杉山雅宏著

東京六法出版　A5 版　163 頁

本書は、「みんな心に荷物を持っている。その持ち方を変えよう」という考え方を提示した、カウンセリングに関するエッセイ集です。自分で自分の心の声を聴き、自分の心に折り合いをつけることができれば、相談室に来ることはないことが、エッセイを読めば分かると思います。

《事務局便り》

- ✓ 会員状況（9/30 現在）
  227 名（内訳：正会員　199 名、準会員 27 名、賛助会員 1 名）
- ✓ 新入会員（2016/6/17～2016/9/30）
  13 名（内訳：正会員　10 名、準会員 3 名）
- ✓ 新入会員紹介（順不同・敬称略）
  大江　宮子、古田　大智、遠藤　正博、近森　勇太、中内　麻美、町田　鏡樹、町田　裕子、戸田　大樹、北爪　あゆみ、若杉　博雄、金尾　久美、佐藤　綾野、高野　祐紀
- ✓ 退会者（2016/6/17～2016/9/30）
  3 名（内訳：通常退会者　3 名，会費未納等による退会者　0 名）
- ✓ 会費納入について 2016 年度（2016 年 10 月～2017 年 9 月）
  振込用紙の発送が遅れています。ご迷惑をおかけし申し訳ありません。10 月中にお手元に届くと存じますので，お早めにお納めください。自動引き落としをご希望の方は，事務局までお知らせください。必要書類一式をお送りいたします。
- ✓ 法人化について
  法人化にともない、次回総会で会則改定および新役員選出を行います。ご協力をお願いいたします。
- ✓ 支援活動委員会の口座開設について
  支援活動委員会の専用口座が開催されました。今後のご支援はこの口座へお願いいたします。
  （支援活動委員会ゆうちょ口座）
  記号　10980　番号　24197571
  口座名　日本人間関係学会支援活動委員会　代表　河合高鋭
  （銀行からの振り込みの受け取り口座）
  店名　〇九八（読み　ゼロキュウハチ）
  店番　098　　口座　普通　2419757
- ✓ 事務局からのお願い
  住所・連絡先・所属・会員身分の変更などがありましたら、至急事務局までご連絡ください。
  FAX: 04-7122-9219　E-mail: jahrjimukyoku@gmail.com

＜事務局長の独り言＞

封切り一週間後に「君の名は。」を観ました。その後これほど人気が出るとは思いませんでしたが、十分頷けます。人間関係の視点から観るのもおもしろいと思います。いまのところ、今年イチオシの映画かと。よくできています。挿入歌もよいです。老婆の声は何と言っても市原悦子さんに限ります。

（編集後記）

編集後記を書いている今、猛烈な台風が沖縄を襲い、今、九州北部へと向かってきています。今年は、九州で2月の大雪、4月の大地震、8月、9月の多くの台風発生と息をつく暇もなく災害が起こっています。こんな時こそ、人の温かさ、人との関わりの重要性を再認識しています。（永野）